

ヤマトシジミの食害 ②潜水ガモ

2005年3月11日にカモ類(キンクロハジロとの事)の前胃と後胃から取り出されたヤマトシジミが十三湖の漁業者から十三漁協に持込こまれました。鳥には2つの胃があり、後胃は砂肝のことです。

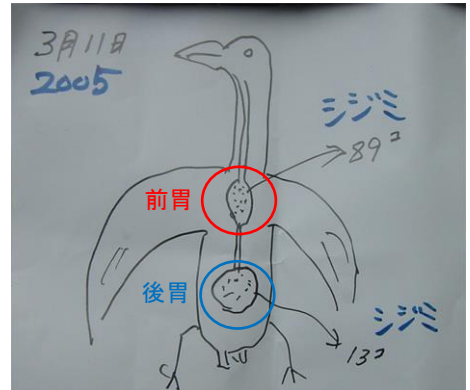
カモ類の前胃(第1胃)から取り出された貝は、88個のヤマトシジミと1個の巻き貝の仲間でした。また後胃(第2胃)の内容物は13個のヤマトシジミでした。

ヤマトシジミは、殻長2.5mm~8.4mmの小型貝が大多数を占めており、最大のものは14mmでした。

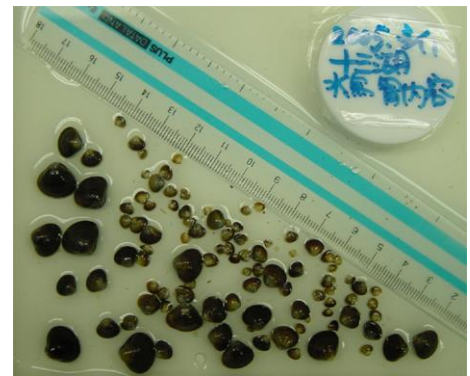
今回提供された胃内容物では、ほとんどが小型のシジミでしたが、以前十三漁協から提供された別のカモ類(スズガモ?)の胃内容物の写真(下)では、漁獲サイズを超える大型のシジミが多数確認されており、カモ類は小型~大型まで食べてしまうと考える方が良いのかと思います。

これら貝類を食べるカモの仲間は潜水ガモと呼ばれ、キンクロハジロ、ホシハジロ、スズガモなどがいます。

山階鳥類研究所の岡氏の研究では、宍道湖において年間4,775トンのシジミをハジロ類が食べているとしており、十三湖など冬季に潜水ガモ類が多くやってくる水域では、かなりの量のシジミが食べられているものと考えられます。



漁業者からの胃内容物採取状況

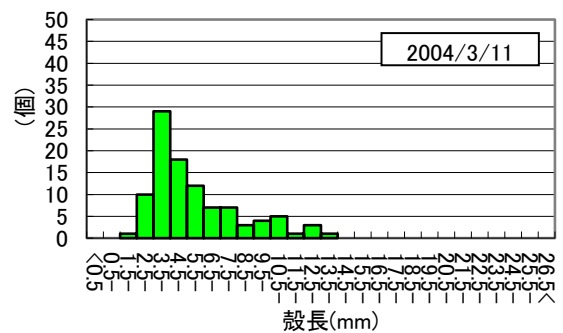


カモ類の胃から採取されたヤマトシジミ

(2005/3/11)



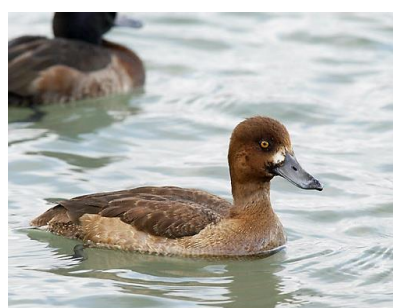
十三湖のカモ類の胃内容(時期不明)



カモ類の胃から採取したヤマトシジミの殻長



キンクロハジロ



スズガモ



ホシハジロ